

令和2年度事業報告書		事業所名	デイサービスセンター しおかぜ 城山	作成者	榊原 翔	作成日	R3.3.31
目標	本年テーマ	(計画)できないからできるに変わる					
		(評価)事業部会議や処遇会議にて職員全員で考え、今まで実践していたやり方や方法を適宜見直したことで今まで取り組む事ができなかったことに対しても取り組む事ができた。(日課プログラム・帳票類の簡素化・担当業務マニュアルの変更等々)					
基本処遇及び運営	■令和2年度処遇及び運営方針に対するの評価						
	(計画)①利用者のできること・できないことを洗い出し利用者にとって必要なケア・必要でないケアを理解し実践する。						
	②職員全員が自信が持てるケアを実践する。						
	③センター独自の自立支援プログラムの開発・実践。						
	(評価)						
	①個別計画の帳票類を見直し、全ての職員が計画書作成～実施まで関わることができ、利用者様への対応方法や必要なケアを職員間で共有しケア現場で実践することができた。又、計画書作成においては利用者様に理解しやすい言葉で作成した結果、利用者様自身がケア計画に対して理解を示していただくようになり、利用中の活動意欲向上やレク活動参加率向上に繋がった。						
	②当初計画していた内部研修会を一部変更したが、計画的に研修会を実施し職員間で不足している知識を補うことができた。又、研修会を通じ次年度の取り組みに繋がるセンターとしての新たな課題も発見することができた。						
	③当初計画していた菜園については、テラス工事の実施にて実施することはできなかったが、花の苗植え等の新メニューを実施した。						
研修・セミナー	■職員研修計画と実績						
		研修名称	参加実績	研修名称	参加実績		
		令和2年度 チームリーダー 重点テーマ研修	西原				
		令和2年度 中堅職員重点 テーマ強化研修	寺崎				
	(効果) チームリーダー重点研修については、チームリーダーとしての責務や役割を理解していただいた。現場の中でも指導・助言することが増えほめる時・叱るとき・フォローすることをしっかりと理解し部下に指導できるようになってきたと感じている。中堅職員重点テーマ研修については、問題解決に向けた能力をつけていただく為に参加していただいた。少しずつではあるが業務の中で課題や問題点が発生した時はチーム全体で解決できるようになってきたと感じている。						
会議・委員会・内部研修	■会議・委員会計画実績・効果						
		会議委員会名	実績・効果	会議委員会名	実績・効果		
		事業部会議	4月・6月・8月・10月・12月 2月・3月実施				
		行事委員会	行事執行月2か月前に実施				
		法人安全衛生委員会	毎月第4水曜日実施				
		新型コロナウイルス感染症対策マニュアルについての研修会	4月				
		各種帳票のチェックポイントについての研修会	6月				
		高齢者虐待及び権利擁護についての研修会	8月				
	事故発生時及び緊急時対応について(AED蘇生法含む)	2月					

防災・災害	■災害訓練計画・実績			
	訓練予定月	実施月	訓練目的	訓練評価
	10月	10月	消火訓練・避難訓練・通報訓練	火災を想定した避難誘導手順の確認を行い職員・利用者様共にマニュアルに沿った火災避難訓練を実施した。
3月	3月	地震を想定した避難訓練・消火訓練・通報訓練・防災機器の説明	地震を想定した訓練を行い、地震発生時の対応及び避難誘導時の注意点・避難誘導器具等の説明を行い災害発生時の避難手順の再確認を行った。	
行事・イベント	■月別行事・内部研修報告			
	月度			
	4月	花見会 花苗植え		
		新型コロナウイルス感染症対策マニュアルについての研修会		
	5月			
	6月	種帳票のチェックポイントについての研修会		
	7月			
	8月	そうめん流し		
		高齢者虐待及び権利擁護についての研修会		
	9月	敬老会 花苗植え		
	10月	秋祭り		
	11月			
	12月	忘年会		
	1月	新年会		
	2月	節分会 花苗植え		
		事故発生時及び緊急時対応について(AED蘇生法含む)		
3月				
<p>(総評) 事業計画のテーマである「できないからできるに変わる」というテーマを基に業務帳票の改定や内部教育訓練の実施、日課プログラムの変更を積極的に行い、業務の進め方を適宜見直し必要に応じ削除・変更した結果、利用者様・職員にとって、時間の中でできなかったこともできるようになってきた。特に個別処遇会議の方法や帳票の見直しについては、利用者様にとって必要なケア・不必要なケアを検討した結果、利用者様のケア内容の統一が図れるようになってきており、徐々にではあるがケア現場での実践ができるようになってきた。しかし、一部で検討された内容が周知できていないこともあり事故発生に繋がった事案も発生しているため検討内容を職員全員が情報共有できるような会議の進め方が課題である。(短時間で必要な情報を正確に共有できるような手段・方法) 又、内部教育訓練については昨年度実施出来ていなかった内容を実施することにより、職員の利用者対応に対する課題(言葉遣いや態度等の接遇面等々)や次年度の目標も明確になり職員にとって有意義な研修会を実施することができた。</p>				